

出穂は平年より早い見込みです。
適正穂肥で高品質・良食味米を生産しましょう！

1. 特栽米コシヒカリ生育調査結果(6月30日現在)

田植日：5月10日(5か所平均)

項目	本年値	前年値	前年比	指標値比	※調査について
草丈(cm)	50.4	42.3	119.1%	102.8%	【草丈等数値】
茎数(本/株)	25.9	32.2	80.4%	93.9%	北越後管内定点調査ほ5か所平均値
葉数	9.2	8.8	+0.4葉	-0.5葉	【指標比・差】
SPAD	37.5	39.2	95.6%	97.4%	5月10日以降の適期移植の理想生育との比較

2. 出穂予想(7月1日現在：新発田市農業普及指導センター)

平年より早生で4日、コシヒカリで2日程度早い予想

「5月10日頃田植え」

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素量合計(kg/10a)	穂肥時期		湛水管理開始時期
				1回目	2回目	
ゆきん子舞	7月1日	7月23日	5~6	6/28~6/30 (-25~-23)	7/9 (-14)	6/28 ~
つきあかり	7月2日	7月24日	5~6	6/26~6/28 (-25~-23)	7/7 (-14)	6/29 ~
あきだわら	7月24日	8月15日	5~6	7/21~7/23 (-25~-23)	8/1 (-14)	7/21 ~
こしいぶき	7月3日	7月26日	2~3	7/3 (-23)	7/12 (-14)	7/1 ~
コシヒカリ	7月15日	8月6日	1~3	7/19~7/22 (-18~-15)	7/27 (-10)	7/12 ~
新之助	7月21日	8月12日	2	7/22~24 (-21~-18)	8/1~8/2 (-12~-10)	7/18 ~
わたぼうし	7月1日	7月23日	2~3	6/30~7/3 (-23~-20)	7/11~7/13 (-12~-10)	6/28 ~
こがねもち	7月9日	8月1日	1~3	7/13~7/16 (-18~-15)	7/21 (-10)	7/7 ~
五百万石	6月28日	7月20日	1~2	6/30 (-20)	7/8 (-12)	6/25 ~

※連休田植えの出穂予想は上記表より1日早い予想となっております。

※コシヒカリや晩生品種は今後早まることも予想されます。最新の情報を確認しましょう。

※穂肥の施用に当っては、ほ場ごとの幼穂の状況を確認しましょう。

※ゆきの精はゆきん子舞よりやや遅めです。

3. 生育診断と適正穂肥

生育診断に基づく適期穂肥施用は食味・品質を良好にし、収量を安定させます!!

1 回目の穂肥は ①有効茎歩合を高める ②籾数を確保する

※1 回目の施用が早すぎると下位節間が伸長し、倒伏の危険が高まります。

2 回目の穂肥は ①稔りの良好化 ②千粒重の増大

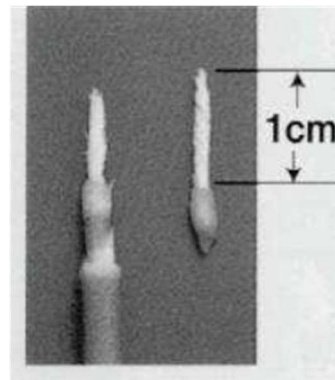
※2 回目の施用が遅すぎると玄米タンパク質含有量が高まり、食味の低下につながります。
葉色が極端に低下しない限り出穂前 10 日以降の施用は控えましょう。

【穂肥診断の方法】

- ◆ 穂肥の施用にあたっては、草丈・茎数・葉数・葉色等の診断並びに幼穂形成期を的確に把握する必要があります。幼穂形成期が近づいたら必ず幼穂の状態を確認しましょう。
- ◆ 幼穂長 1~2 mm の時が幼穂形成期で、出穂期 23~25 日に当たります。幼穂長が 1 cm 程度であれば出穂前約 18 日になります。ただし、この日数は気温が高いと短縮するため、幼穂形成期以降も幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用しましょう。



幼穂形成期
(2mm)



穂肥 1 回目の目安
(コシヒカリ)

幼穂の長さ	出穂前日数	幼穂長・外形ほか	発育過程	備考
1mm	23~25日前	幼穂2ミリまでは伸びが遅い	幼穂形成期	早生品種の穂肥時期(1回目)
2mm				
5~10mm	18日前	止葉が出始める	花粉母細胞分化	コシヒカリの穂肥時期(1回目) ※有機100%穂肥はこれより5~6日早く施用
4~6cm	12日前		減数分裂期	早生品種の2回目穂肥時期(14~10日前)
8cm	10日前	止葉(13枚目)と次葉(12枚目)の葉耳がかさなる(葉耳間長平均±0cm)		コシヒカリの2回目の穂肥時期 ※穂肥終了

4. おすすめ穂肥と施用のめやす

品名	容量	成分(%)				おすすめポイント	持ち帰り価格 (税込)
		N	P	K	その他		
北越後穂肥専用	20kg	12	5	8	苦土3	速効性チッソ、カリのほかにリン酸、苦土もバランスよく含む肥料です。	2,500円
越後の輝き有機50穂肥	20kg	12 (化5.9)	2	8		特栽米、減減栽培に使用可能、有機由来窒素が6.1%	3,040円
硫化磷安(穂肥)32号	20kg	14	4	14		化成なので効きが早く、窒素1キロ当たりの費用も安い。	2,230円
α有機246ネオVa	20kg	12 (化8.5)	4	6	苦土3	化学由来窒素と有機由来窒素が混合。両方の良さを発揮します。	2,940円
味好2号	20kg	7	2	7		有機100%肥料。地力増進効果も特栽や減減におすすめです。	3,040円
おてがるくん	20kg	12	5	7		流し込み肥料。大区画圃場などの施肥作業が軽減できます。	2,970円
おてがるくんNK	20kg	15	0	6		流し込み肥料。リン酸が含まれないタイプのおてがるくん。	2,840円
ポタポタ液肥2号	23.4kg	6	1.2	3.2		有機100%水口流し込み肥料、特栽・減減栽培にも使用可。	5,670円

※有機由来窒素を含んだ肥料を施用する場合は、化学窒素肥料に比べ散布時期が早くなりますので下記表を参考にして下さい。

◆有機由来窒素の割合からみた穂肥の施用時期

有機由来の窒素割合	肥料名	化学窒素肥料より早める日数
20%以下	北越後穂肥専用	同等の時期
30~40%	α有機 246 ネオ Va	1~2日程度早める
50~60%	越後の輝き有機 50 穂肥	2~3日程度早める
100%	味好2号	5~6日程度早める

【基肥一発肥料における穂肥対応】

基肥一発肥料は基本穂肥施用の必要はありませんが、生育状況によっては多少の穂肥を必要とする場合があります。

①元々後期栄養が持続しない低地力ほ場、又は極端に葉色がさめている。

②基肥一発肥料の施用量が少なかった。

☞このような場合、後期栄養を重視し下記を参考に穂肥施用を検討しましょう。

《参考》

◆コシヒカリ出穂10日前の葉色と追肥の目安

使用する穂肥	SPAD値	葉色版	施用時期	施用量
化学肥料	32以下	4.2以下	出穂10日前	チッソ1.0kg
有機質肥料(有機由来100%)	34以下	4.5以下		チッソ1.5kg

5. 出穂期の水管理

【コシヒカリの水管理イメージ】



カドミウム吸収抑制対策として出穂前後25日間は湛水管理を実施しましょう。

出穂期前後（幼穂形成期から登熟期）は稲にとって最も水を必要とする期間です。高品質・良食味米生産米にとって最も重要な栽培管理のポイントの一つです。

但し湛水管理期間中、高温が続く場合は水温上昇による「根腐れ」が心配されます。可能な限り水交換を行い根の健全化に努めましょう。

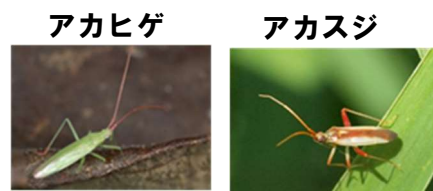
6. 病害虫発生情報（6月30日：新潟県病害虫防除所）

【斑点米カメムシ類】 量：多い。時期：並

6月下旬の畦畔すくい取り調査における県全体の確認虫数はアカスジカスミカメが平年に比べ多く、過去10年で最も多くなっております。下越地域では、アカヒゲホソカスミカメの確認虫数が多く確認されております。

● 6月下旬畦畔すくい取り調査 [下越]

斑点米カメムシ名	確認地点率	すくいとり虫数
アカヒゲホソドリカスミカメ	やや低い	多い
アカスジカスミカメ	並み	やや少ない
オオトゲシラホシカメムシ	やや低い	やや少ない



※出穂期以降の草刈りは本田にカメムシを追い込むこととなりますので7月一杯で終了しましょう。
 ※本田内にヒエやホタルイ等が結実すると、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するので早めに除去しましょう。

【葉いもち】 量：並。時期：並

・いもち病感染好適条件は、下越中条で6月12日に確認されております。現在北越後管内でいもち病の発生は確認されておりませんが、6月19日～6月29日にかけて県内で感染好適条件が断続的に出現しており、7月第1～2半旬以降に各地で発病の可能性があります。

【紋枯れ病】 量：多い。時期：早い

・前年発生量が平年比多く、越冬菌核量は平年比多いと推定されます。

イネドロオウムシによる被害防止対策について

今年は管内各地の水稻でイネドロオウムシによる葉への食害被害が見受けられました。食害による生育への影響は「生育の遅れ」「生育の不揃い」「茎数の減少」「穂数不足」等につながり場合によっては減収の恐れもあります。

対策として「箱処理剤」による対応が効果も高く安定しているため特に毎年被害が発生しやすい圃場（地域）については箱処理剤の施用をお勧めいたします。なお、箱処理については「令和3年度生産資材申込書」にてご確認頂きまして、使用方法等について不明な点がございましたらTAC担当または営農相談課までお問合せをお願いいたします。

「連休植え」

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素 量合計 (kg/10a)	穂肥時期		湛水管 理 開始時 期
				1回目	2回目	
ゆきん子舞	6月30日	7月22日	5~6	6/27~6/29 (-25~-23)	7/8 (-14)	6/27 ~
つきあかり	7月1日	7月23日	5~6	6/25~6/27 (-25~-23)	7/6 (-14)	6/28 ~
あきだわら	7月23日	8月14日	5~6	7/20~7/22 (-25~-23)	7/31 (-14)	7/20 ~
こしいぶき	7月2日	7月25日	2~3	7/2 (-23)	7/11 (-14)	6/30 ~
コシヒカリ	7月14日	8月5日	1~3	7/18~7/21 (-18~-15)	7/26 (-10)	7/11 ~
新之助	7月20日	8月11日	2	7/21~7/23 (-21~-18)	7/31~8/1 (-12~-10)	7/17 ~
わたぼうし	6月30日	7月22日	2~3	6/29~7/2 (-23~-20)	7/10~7/12 (-12~-10)	6/27 ~
こがねもち	7月8日	7月30日	1~3	7/12~7/15 (-18~-15)	7/20 (-10)	7/5 ~
五百万石	6月27日	7月19日	1~2	6/29 (-20)	7/7 (-12)	6/24 ~

「5月10日頃植え」

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素 量合計 (kg/10a)	穂肥時期		湛水管 理 開始時 期
				1回目	2回目	
ゆきん子舞	7月1日	7月23日	5~6	6/28~6/30 (-25~-23)	7/9 (-14)	6/28 ~
つきあかり	7月2日	7月24日	5~6	6/26~6/28 (-25~-23)	7/7 (-14)	6/29 ~
あきだわら	7月24日	8月15日	5~6	7/21~7/23 (-25~-23)	8/1 (-14)	7/21 ~
こしいぶき	7月3日	7月26日	2~3	7/3 (-23)	7/12 (-14)	7/1 ~
コシヒカリ	7月15日	8月6日	1~3	7/19~7/22 (-18~-15)	7/27 (-10)	7/12 ~
新之助	7月21日	8月12日	2	7/22~24 (-21~-18)	8/1~8/2 (-12~-10)	7/18 ~
わたぼうし	7月1日	7月23日	2~3	6/30~7/3 (-23~-20)	7/11~7/13 (-12~-10)	6/28 ~
こがねもち	7月9日	8月1日	1~3	7/13~7/16 (-18~-15)	7/21 (-10)	7/7 ~
五百万石	6月28日	7月20日	1~2	6/30 (-20)	7/8 (-12)	6/25 ~

※出穂予想は今後の気温により変動します、穂肥作業前に最新の情報を確認しましょう。
 ※穂肥の施用に当たっては、ほ場ごとの幼穂の状況を確認しましょう。